ご使用のしおり

《取扱説明書》

（ロックカッター内蔵）

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ 注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

⚠ 警告　感電・火災・けがの恐れがあります。

必ず実行　一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。

必ずプラグを抜く　以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止　お客様自身での分解はしないでください。

接触禁止　ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・針止め・はずみ車・天びん・糸巻き軸・ロックカッターなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

はずみ車

糸巻き軸

禁止　プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。

禁止　ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。

禁止　曲がった針や、針先のつぶれた針はご使用にならないでください。

禁止　このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。
付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。

注意　お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。

注意　不用意にスタート・ストップボタンを押すと、針やはずみ車が動き、けがの原因になりますので十分注意してください。

必ず実行　針及び押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。

必ず実行　ミシン操作時は、不安定な場所では行わないでください。
また、面板などのカバー類を閉じてから操作してください。

必ず実行　以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・押さえ、アタッチメントを交換するとき
・上糸、下糸をセットするとき

必ず実行　電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。

必ずプラグを抜く　以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。
・針、針板を交換するとき
・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください。)
・ミシンのお手入れを行うとき

必ずプラグを抜く　ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目次

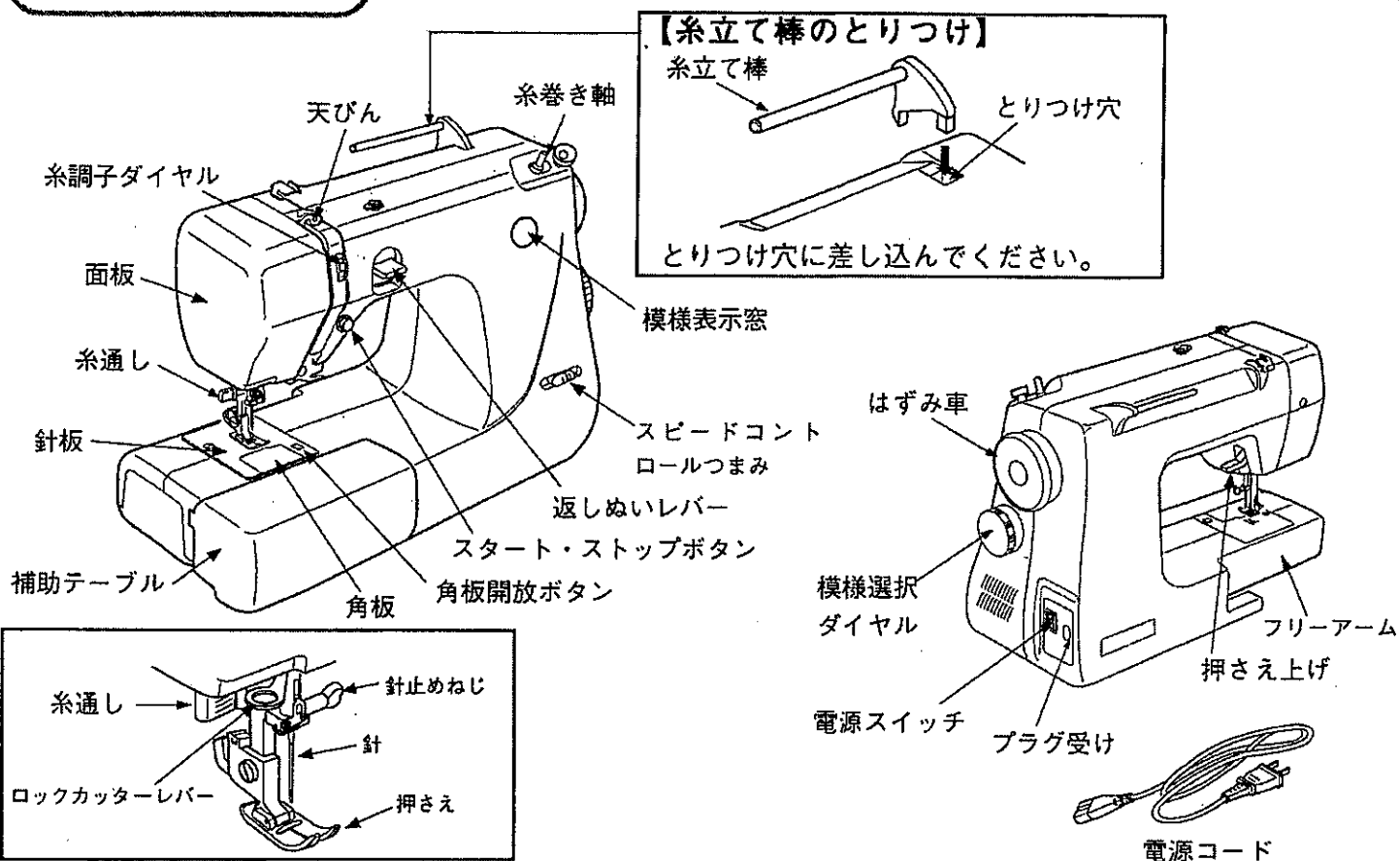
おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

①ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
②シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために

①長時間日光に当てないでください。
②湿気やほこりの多いところは避けてください。
③落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

各部のなまえ

【糸立て棒のとりつけ】

糸立て棒

とりつけ穴

とりつけ穴に差し込んでください。

天びん

糸巻き軸

糸調子ダイヤル

面板

模様表示窓

糸通し

針板

スピードコントロールつまみ

返しぬいレバー

スタート・ストップボタン

補助テーブル

角板

角板開放ボタン

はずみ車

模様選択ダイヤル

フリーアーム

押さえ上げ

電源スイッチ

プラグ受け

電源コード

糸通し

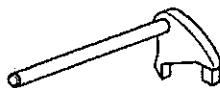
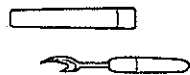
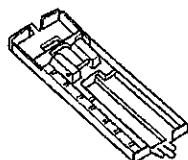
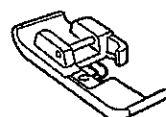
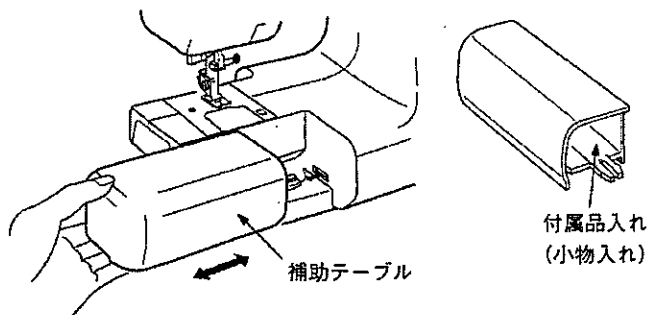
針止めねじ

針

ロックカッターレバー

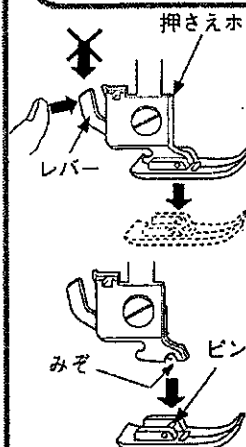
押さえ

標準付属品

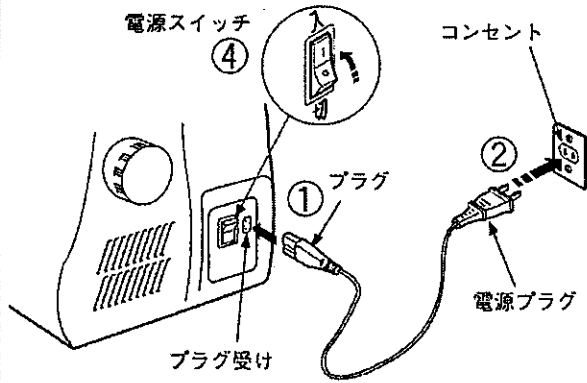
補助テーブルに収納されています。

フリーアーム

補助テーブルを横に引いて外すと、フリーアームになります。

補助テーブルは、小物入れとしても利用できます。

押さえの交換

①押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを押してはずします。

②押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

電源のつなぎ方

③（スタート・ストップボタン）

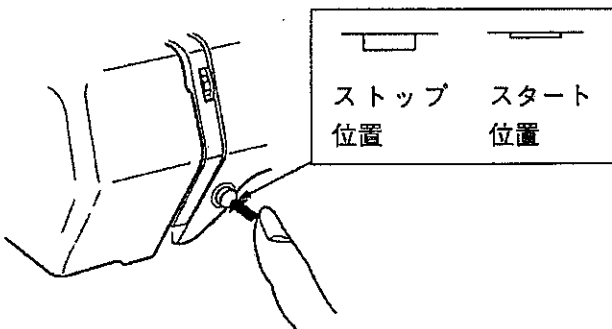
○	✕
スタート・ストップボタンを戻したとき（ストップ位置）	スタート・ストップボタンを押したとき（スタート位置）

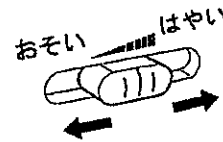
① 電源スイッチを切ってから、プラグをプラグ受けに差し込みます。
② 電源プラグをコンセントに差し込みます。
③ スタート・ストップボタンが「ストップ」の位置にあることを確認します。
④ 電源スイッチを入れます。

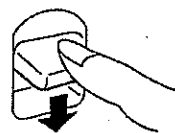
※電源は一般家庭用（100V 50/60Hz)です
※ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

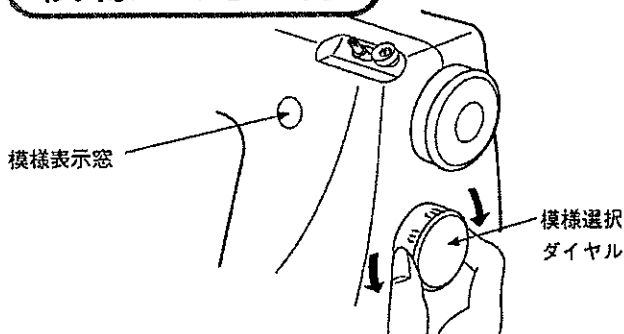
⚠ 注意

電源スイッチを「入」にするとき、及び電源プラグをつなぐときには、必ずスタート・ストップボタンを「ストップ」の位置にしてください。
スタート・ストップボタンが「スタート」の位置で電源スイッチが「入」になっている場合には、電源プラグをつなぐと同時にミシンが動きだし危険です。

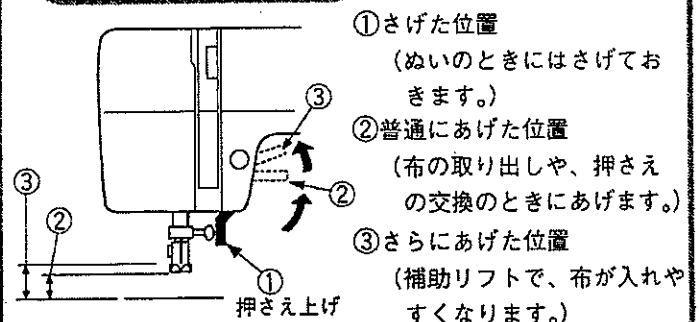
スタート・ストップボタン

ボタンを押すと、スピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。

スピードの調節

ぬう速さは自由にセットできますので、スピードコントロールつまみを、お好みの速さにセットしてください。

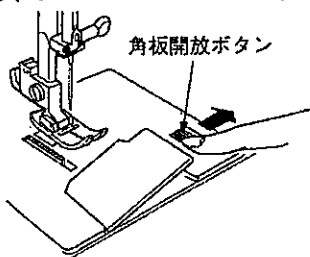
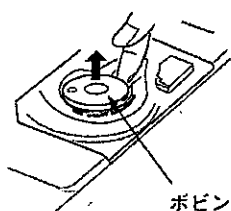
返しぬいレバー

ミシンを運転中レバーを押している間は返しぬいをし、離すと前進ぬいになります。
ぬい目のほつれ止めなどに利用します。

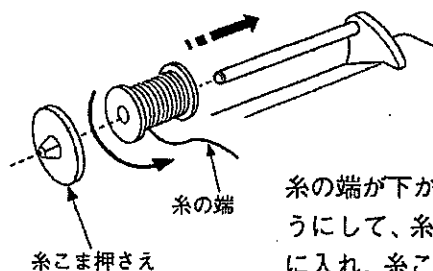
模様の選び方

針をあげて模様選択ダイヤルを回し、模様を選びます。
※針が布に刺さったままで模様選択ダイヤルを回すと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

押さえ上げ

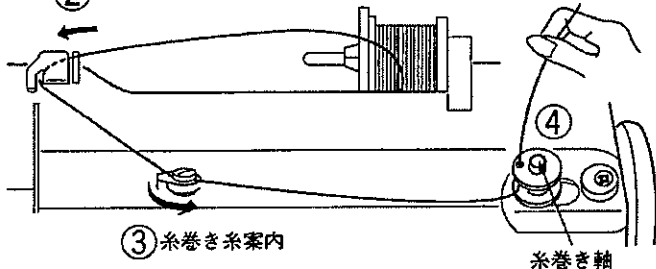
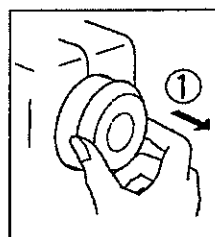
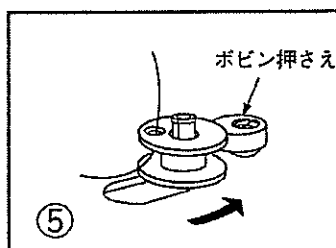
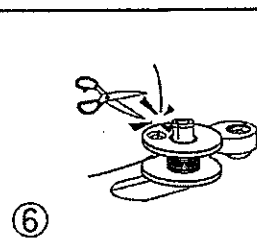
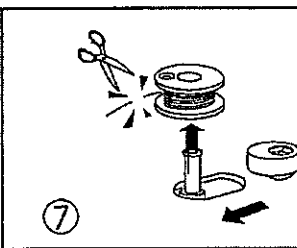
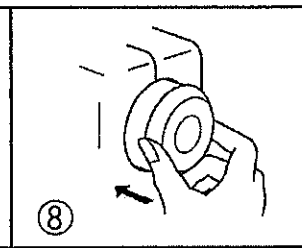
①さげた位置
（ぬいのときにはさげておきます。）
②普通にあげた位置
（布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。）
③さらにあげた位置
（補助リフトで、布が入れやすくなります。）

押さえ上げで押さえの上げ下げをします。
押さえを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。

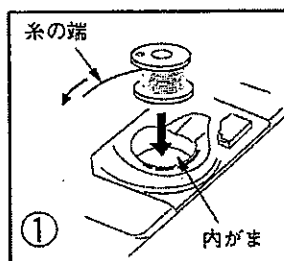
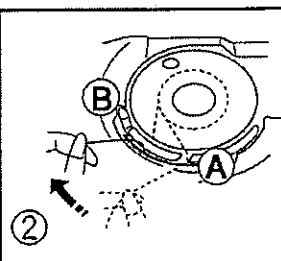
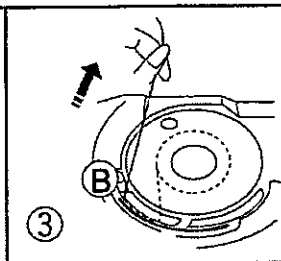
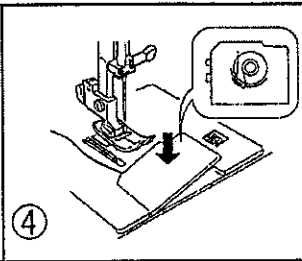
下糸の準備

★ボビンのとりだし

①角板開放ボタンを右に寄せて、角板をはずします。

②ボビンをとり出します。

★糸こまのセット

糸の端が下から手前に出るようにして、糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

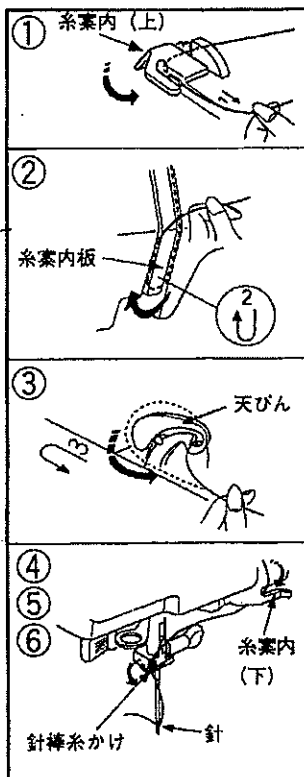
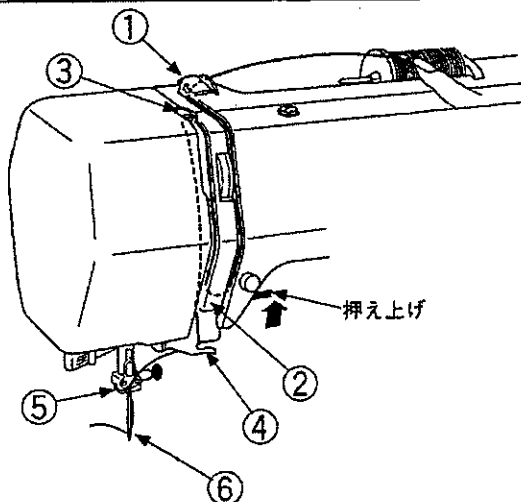
★ボビンに糸を巻く

※スピードコントロールつまみは、「はやい」にセットしてください。
※ボビンは、ジャノメ専用ボビンをご使用ください。

①はずみ車を引き出します。
②糸案内（上）にかけます。
③糸巻き糸案内にかけます。
④ボビンの穴に内側から糸を通し糸巻き軸に差し込みます。

⑤ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。

⑥糸の端をつまんだままミシンをスタートしてボビンに糸が二重ほど巻きついたら、ミシンを止めて、つまんでいる糸を切ります。

⑦再びスタートして、巻き終わったらミシンを止めます。糸を切って糸巻き軸を戻し、ボビンを糸巻き軸よりはずします。

⑧はずみ車を元の位置（押し込む）に戻します。

★ボビンのセット

①糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

②糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。糸を引きながら左へ移動させ、みぞの外とバネの間を通して、左側のみぞ（B）のところに出します。

③糸を左側のみぞ（B）にかけるように、向こう側に出します。

④下糸は、10cm くらい引き出して、角板を左側からあわせて、つけます。

上糸の準備

★上糸のかけ方

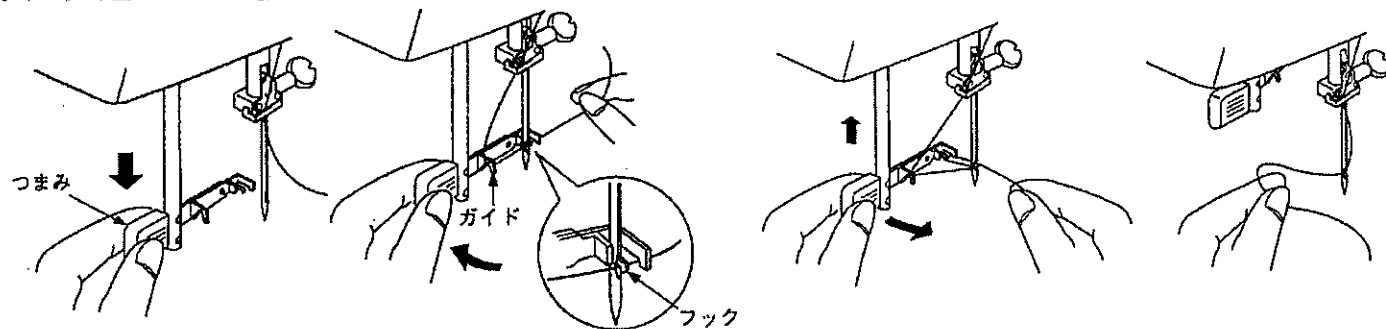
【お願い】
上糸をかけるときは、必ず押さえ上げをあげてください。

※糸こまを押さえながら正しく糸をかけてください。

①押さえ上げをあげ、糸を糸案内（上）の向こう側から右側のみぞにそって下におろします。

②糸案内板の下を回して右から左にかけ上に引きあげます。

③はずみ車を手前に回し、針と天びんを上部にします。天びんには、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出してまっすぐ下におろします。

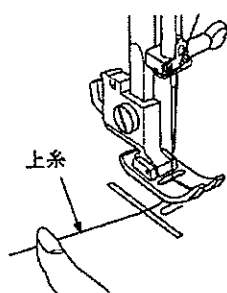
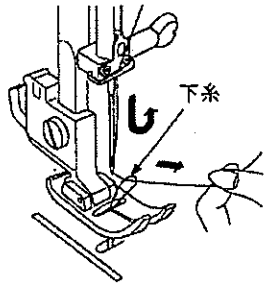
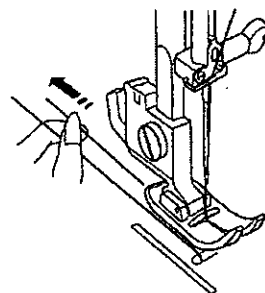
④糸案内（下）に右からかけます。
⑤針棒糸かけに左からかけます。
⑥糸通しを使って針に糸を通します。

★糸通しの使い方

① 押さえ上げをさげ、はずみ車を回して針をいちばん上にあげます。つまみをいちばん下までさげて、保持します。

②つまみを矢印方向へ回してフックを針穴に入れます。糸をガイドとフックにかけます。

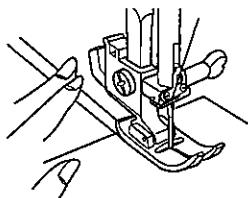
③つまみを矢印方向へ回して糸が輪になって出てきたらつまみを押し上げ糸の輪を引き上げます。

④針穴から端を引き出します。

★下糸の引き上げ方

①押さえをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②はずみ車を手で一回転させ、上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。

③上糸と下糸を押さえの下にして、後ろへそろえて約 10cm くらい出します。

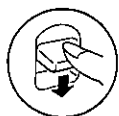
直線ぬい

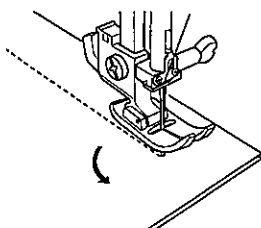
※直線ぬいは、ぬい目のあらさが異なる3種類があります。

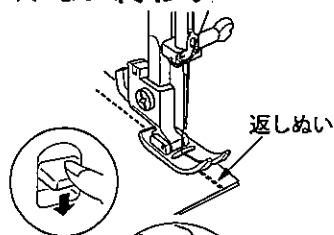
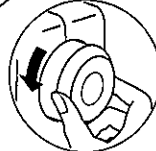
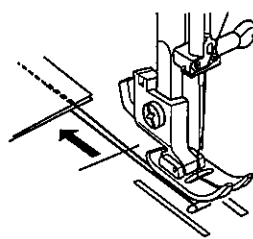
★ぬい始め

糸と布を押さえ、はずみ車を手前に回し、ぬい始めの位置に針を刺します。

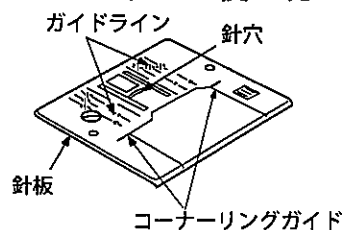
※位置がずれた場合には、はずみ車を向こう側に少し回すだけで針が布から抜けます。
もう一度位置合わせを行ってください。

(向こう側)
(手前)

押さえをさげて、布をガイドラインに合わせてぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを使います。

★ぬい方向の変更

ミシンを止め、はずみ車を回して針を布に刺し、押さえをあげます。針を刺したまま、布を回して方向をかえます。

★ぬい終わり

返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

ミシンを止め、手ではずみ車を手前に回して針をいちばん上にあげます。

押さえをあげて、布を向こう側に引き出し、糸を切ります。

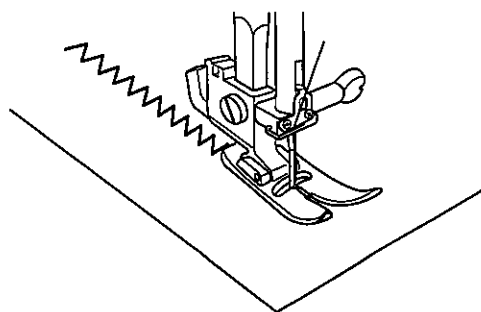
★針板ガイドラインの使い方

ガイドライン・・布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

コーナーリングガイド・・

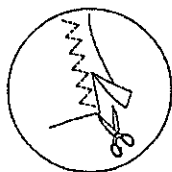
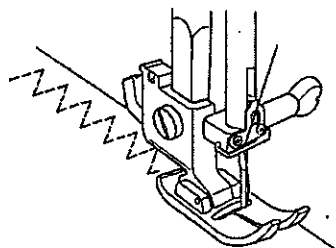
布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、針を布に刺し押さえをあげます。布を回して方向をかえます。

コーナーリングガイドは針穴から1.6cmの位置にあります。

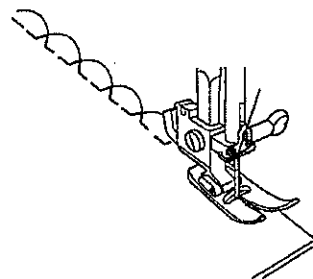
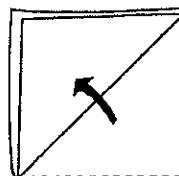
ジグザグぬい

伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には、接着芯を貼るときれいにぬえます。

※模様は、（大）、（小）２種類あります。

トリコットぬいたち目かがり

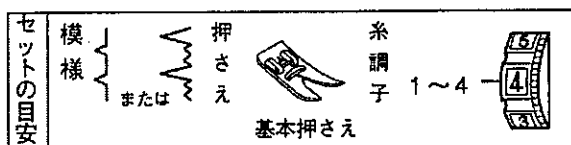
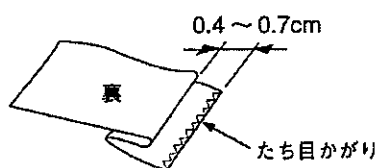
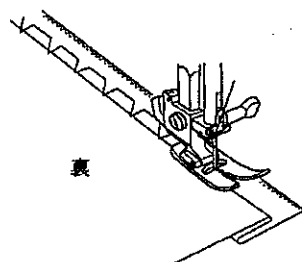
セットの目安	模様	押さえ	糸調子
		基本押さえ	3〜6

ほつれやすい布や、伸縮性のある布のほつれ止め布端の返り防止などに利用します。ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

シェルタック

セットの目安	模様	押さえ	糸調子
		基本押さえ	6〜8

①布をバイヤスに二つ折りにします。

②針が右にきたとき、布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。

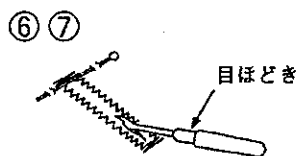
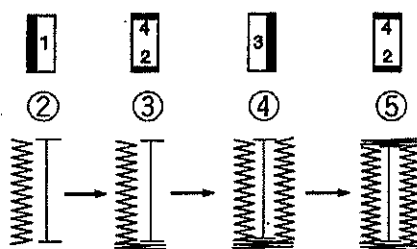
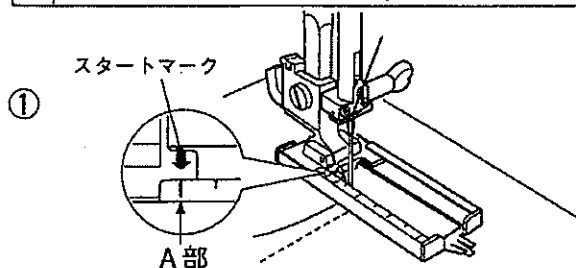
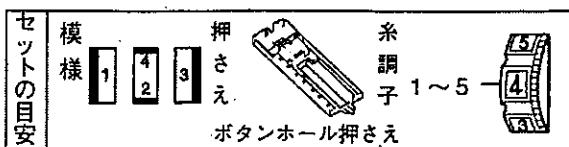
くけぬい（まつりぬい）

セットの目安	模様	押さえ	糸調子
	または	基本押さえ	1〜4

【布の折り方】

【ぬい】

① 針がいちばん左にきたとき、わずかに折り山を刺すように布をおき押さえをさげてスタートします。
スピードコントロールつまみは「おそい」にします。

② ぬいおわったら布を広げます。

ボタンホール

⑥⑦

目ほどき

※ぬうものと同じ布で試しぬいをしてください。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①模様 1 を選びます。上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。押さえを手前に引きスタートマークをA部に合わせます。

②ぬい始めの位置に針をさし、押さえをおろしてミシンをスタートし必要な長さまでぬってミシンを止めます。

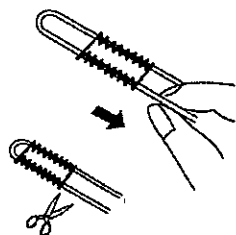
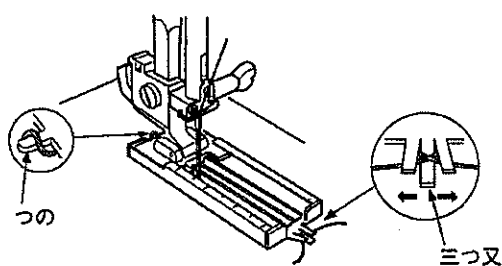
③針をあげて模様 4 2 を選びます。かんぬきを5針くらいぬいミシンを止めます。

④針をあげて模様 3 を選びます。左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。

⑤針をあげて模様 4 2 を選びます。かんぬきを5針くらいぬいます。

⑥押さえをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cmくらい残して切ります。
上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

⑦かんぬきの内側にまち針を刺し、目ほどきでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

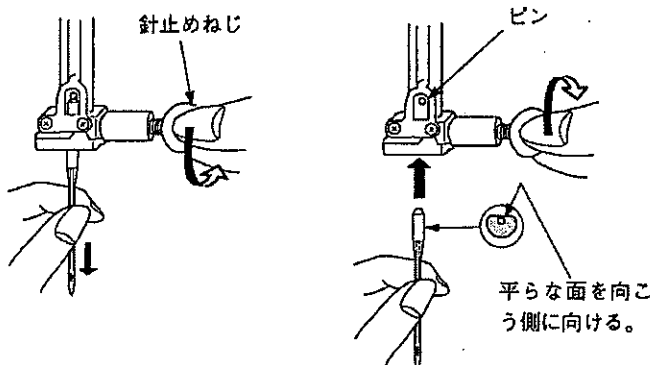
★芯入りボタンホール

①芯糸の輪を押さえの後ろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

②ボタンホール手順と同じようにぬいます。

③左側の芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

針のとり扱い

★針のとりかえ方

⚠ 針のとりかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

①針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針をはずします。

②針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

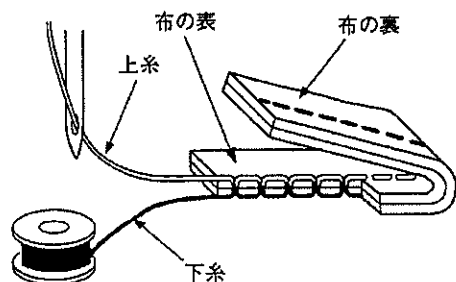
★布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール 化繊布	絹　糸８０番～１００番 綿　糸８０番～１００番 化繊糸８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿 化繊布 薄手ジャージー 一般ウール 化繊服地	絹　糸５０番 綿　糸６０番～８０番 化繊糸５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸５０番 綿　糸４０番～５０番 化繊糸４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸３０番 綿　糸３０番	１６番

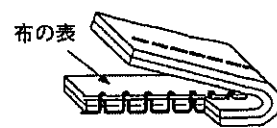
※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはぎれを使って試しぬいをしてください。
※ 原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。
※ 伸縮性のある布地（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針（別売）を使用すると効果があります。
（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

糸調子の調節

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調節します。糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり布にしわがよったり、糸が切れたりします。

【正しい糸調子】・・・上糸と下糸がほぼ中央でまじわります。

【上糸が強い場合】

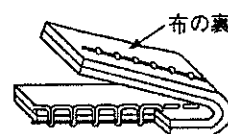
下糸が布の表に出ます。

布の表

糸調子を弱めます。

指示線に合わせます。

【上糸が弱い場合】

上糸が布の裏に出ます。

布の裏

糸調子を強めます。

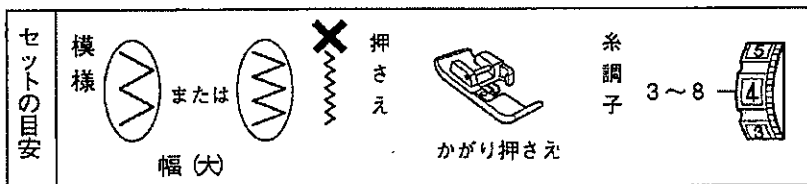
ロックカッター

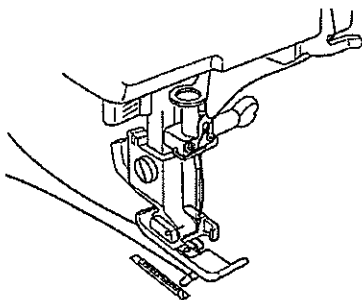
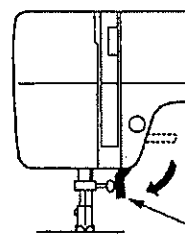
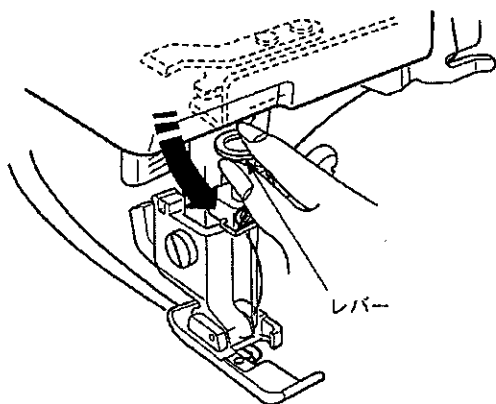
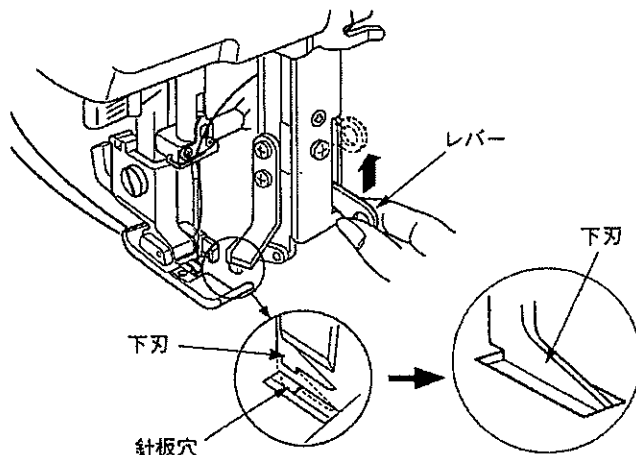
ワンタッチでロックカッターがセットされ、布を切りながら、たち目かがりができます。

安全にご使用いただくために

⚠ 注意　けが防止のために、以下のことを必ず守ってください。

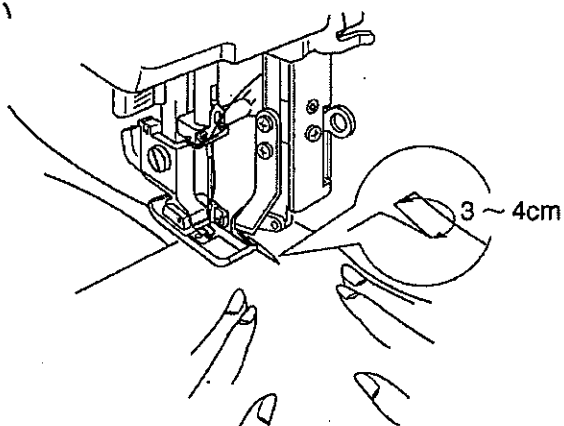
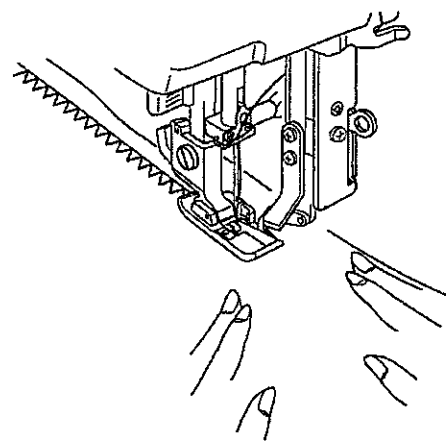
1. ロックカッターをセットするときには、必ず、電源を切ってください。
2. 操作中は、針やロックカッターの動く部分に指を触れるとけがをするおそれがありますので、絶対に指を近づけたり、触れたりしないでください。
3. ロックカッターの切刃部分には、指を触れないでください。
4. ロックカッターを使用するときは、たち目かがり専用の模様（ または ）を必ず選んでください。
5. 押さえは、付属のロックカッター専用かがり押さえをご使用ください。
6. ミシンの速度は、「おそい」でご使用ください。
7. 操作中は、お子様や他の人を近づけないでください。もし、ロックカッターに触れて不意に動かされると、針が折れたりして危険です。
8. 使用後は、必ず、もとの位置にロックカッターを戻してください。

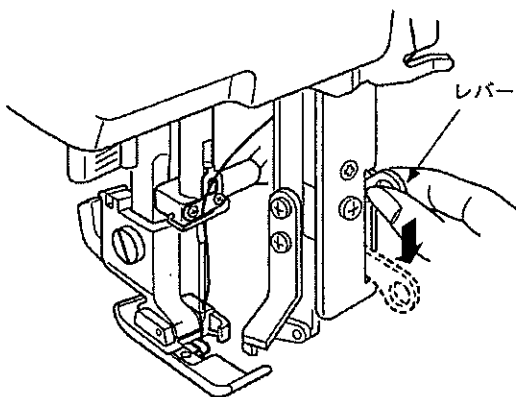
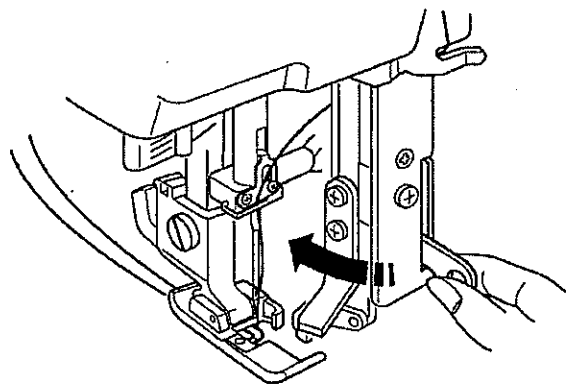
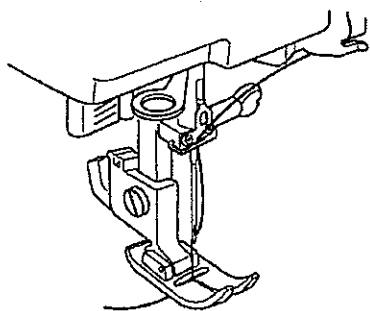
★ミシンのセット

※ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。

★ロックカッターのセット　※上糸の通し方は普通ぬいのときと同じです。

① 上糸を通しおえたら上糸と下糸を押さえの下にして、後ろへそろえて10cmぐらい出しておきます。

② 上糸と下糸の準備ができたら、針を一番上にあげて、押さえ上げをさげます。

③ 針が一番上にあがっていることを確認して、ロックカッターレバーを下におろします。

④ ロックカッターがおりたら、レバーを上にあげ、下刃を針板穴にセットします。

※ 下刃が針板穴に確実に入っていることを確認してください。

⚠ ロックカッター使用時は、絶対に返しぬいはしないでください。
針が折れたりして危険です。

★ぬい

① 布のぬい始めを、3～4cm程はさみで切ります。押さえ上げをあげ、切り口を下刃に合わせ、押さえの下に入れます。

② 押さえ上げをさげて、針を布に刺し、ゆっくりぬい始めます。

★ぬいおわり

① レバーを下にさげ、下刃をあげます。

② 押さえ上げをさげ、針が一番上にあがっているか確認して、レバーをもとの位置に戻します。

③ 押さえ上げをあげ、押さえを交換します。

ロックカッター収納時の注意

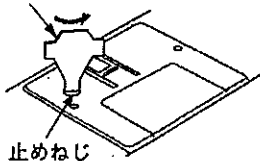
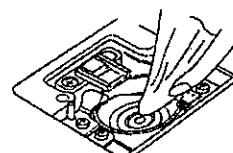
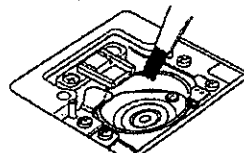
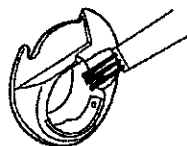
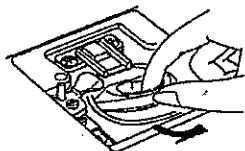
1. 押さえ上げをさげてから、ロックカッターを収納してください。押さえ上げがあがっていると、押さえとあたり破損の原因になります。
2. ロックカッターが、「カチッ」と止まる位置まで戻してください。

ご注意

はずみ車を手でゆっくり回したときに、きしみ音がしますが、トラブルではありませんのでご了承ください。

ミシンのお手入れ

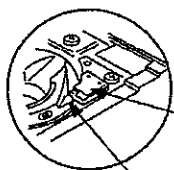
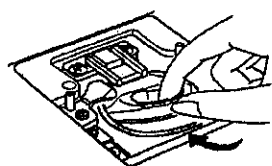
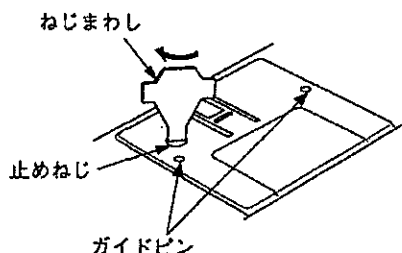
★かまと送り歯の掃除

お手入れのときは必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

①針と押さえをはずします。針板止めねじをはずして、針板をはずします。

②ボビンをとり出し、内がまの手前を上に引きながらはずします。

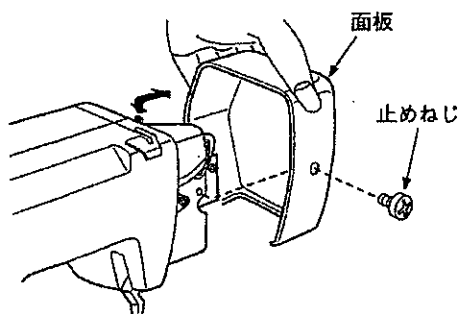
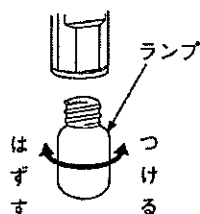
③内がまをブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。

④ブラシや掃除機で外がまと送り歯、およびその周辺の糸くずをとり、外がまを布切れで軽くふき掃除します。

★内がまと針板の組みつけ

①内がまを差し込みます。
②内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴をあわせ、止めねじをしめます。

★ランプの交換

電源スイッチを切ってください。
ランプが冷えてから交換してください。

【とりはずし】
①止めねじをはずして、面板をはずします。
②ランプを左に回して、はずします。

【とりつけ】
①ランプを右に回して、とりつけます。
②止めねじで面板をとりつけます。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所にからみついている。 2 上糸調子が強すぎる。 3 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4 針のつけ方がまちがっている。 5 ぬい始めに、上糸と下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	上糸を正しくかけ直す。 糸調子ダイヤルを弱める。 針を交換する。 針を正しくつける。 上糸と下糸をそろえる。 適切な針や糸を選ぶ。
下糸が切れる。	1 下糸の通し方が、まちがっている。 2 内がまの中に、ごみがたまっている。 3 ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	下糸を正しく通し直す。 内がまを掃除する。 ボビンを交換する。
針がおれる。	1 針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3 針を布にさしたままで、模様選択ダイヤルを回した。 4 布にくらべて針が細すぎる。	針を交換する。 針止めねじをしっかりしめる。 針をあげてからダイヤルを回す。 針を交換する。
ぬい目がとぶ。	1 針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2 布に対して、針と糸があっていない。 3 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4 上糸のかけ方がまちがっている。	針を交換する。 適切な針や糸を選ぶ。 ブルー針を使う。（別売） 上糸を正しくかけ直す。
ぬい目がしわになる。	1 上糸調子があっていない。 2 上糸と下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3 布にくらべて針が太すぎる。	糸調子ダイヤルを調整する。 糸を正しくかけ直す。 針を交換する。
ミシンがまわらない。	1 コンセントに、プラグがきちんと差し込まれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2 かまに、糸やごみがたまっている。 3 下糸を巻いたあとはずみ車が元に戻っていない。（糸巻き状態になっている）	正しく差し込む。 かまの掃除をする。 はずみ車を元に戻す。
ロックカッターでうまくかがれない。	1 模様がまちがっている。 2 糸のかけ方がまちがっている。 3 下刃が正しくセットできていない。	模様を選び直す。 糸を正しくかけ直す。 下刃を正しくセットする。

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存してください。
●無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し付けください。

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 03（3277）2468
受付 月曜日～金曜日
（9時～12時
13時～17時）

仕	様
使用電圧	１００Ｖ ５０/６０Hz
消費電力	５０Ｗ/ランプ１２Ｗ
外形寸法	幅35.3cmX奥行15.9cmX高さ26.5cm
重　　量	５．５kg（本体）
使用針	家庭用 HAＸ1
縫速度	毎分６５０回転

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。